

## 組織的な大学院教育改革推進プログラム 平成20年度採択プログラム 事業結果報告書

教育プログラムの名称	: 看護学国際人育成教育プログラム
機関名	: 東京医科歯科大学
主たる研究科・専攻等	: 大学院保健衛生学研究科・総合保健看護学専攻
取組代表者名	: 佐々木 明子
キーワード	: 看護学国際人、アカデミック・トレーニング、国際的教育、国際的研究

### I. 研究科・専攻の概要・目的

#### 1. 研究科・専攻の概要

大学院保健衛生学研究科は、大学院医学系研究科の中に保健衛生学専攻として平成5年に修士課程が、博士課程が平成7年に設置されたことが始まりである。平成12年には大学院保健衛生学研究科として医学研究科から独立、平成13年には総合保健看護学専攻と生体検査科学専攻の2専攻を有する看護学、検査学ではわが国で初めての大学院重点化大学として部局化された。平成16年の独立法人化を契機として、新時代に対応しつつ、常に新たなチャレンジを続けている。

総合保健看護学専攻の第一の特徴は、国立大学法人の看護系大学院として博士（前期）課程において、わが国でも多くの6分野の専門看護師教育課程を有していることである。

第二の特徴として、平成17年度の「魅力ある大学院教育」イニシアティブとして看護系大学の若手教員が在職したまま博士号を取得できる「看護系大学教員の博士号取得推進プログラム」を推進し、平成20年度からは「大学院教育改革支援プログラム」が採択され、国際的な看護学研究者・教育者の育成に取り組んできた。

総合保健看護学専攻の教育課程は、「地域・在宅ケア看護学」「看護機能・ケアマネジメント開発学」「健康教育開発学」の3つの大講座に、12の専門分野をもち、博士（前期）課程、博士（後期）課程の教育を連動して行っている。平成22年5月現在の学生数は53人、教員数は23人である。

#### 2. 人材養成目的

看護学に求められている多くの課題に的確に対応し、国際的学際的指導力を発揮するために、大学院の教育研究の高度化を図り、大学院における臨床志向型研究を主軸においた研究活動を積極的に進めることにより、国際社会のニーズに応える研究心旺盛で問題解決型思考力を有する高度専門職業人及び世界をリードする本格的な国際的研究者の養成を行うことを基本理念とする。この理念に基づき、下記の能力を有する人材を育成する。

- (1) 国際的リーダーとしての研究者
- (2) 臨床志向型研究をリードする高度専門職業人

### II. 教育プログラムの目的・特色

#### 1. 教育プログラムの目的

教育プログラムの目的はグローバルな素養と見識を修得するための「アカデミック・トレーニング」を実施し、国際的に活躍する看護学教育・研究者、すなわち看護学国際人の育成を行うことである。

「アカデミック・トレーニング」とは第一線の教育研究者が国際的に活躍するために備えるべき、研究技法や理論にとどまらない知識・技術・態度を体系的に教育するためのプログラムのことをいう。

## 2. 教育目標

教育目標は以下に示すとおりである。

- (1) 国際的に価値の高い看護学教育・研究課題への発想力、着眼力の修得
- (2) 国際的な看護学教育・研究を実施する企画力、交渉力、実践力、研究助成金獲得方法の修得
- (3) 国際的に適応する看護学の実践力および教育・研究力の修得
- (4) 国際的な看護学教育・研究成果を世界へ発信する語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の修得

## 3. 特色

グローバル時代においては、国際社会のニーズに応えるべく、わが国および世界の看護の質の向上が望まれている。そのため、国際的な看護学の教育・研究を行い、世界の看護をリードする卓越した教育・研究遂行能力をもつ人材を育成することが必要である。その人材育成による成果を広く世界の看護の教育・研究および実践の発展に役立てることが望まれている。

一流の研究者・教育者であり、看護学国際人として新たな看護の在り方の提言を行うことができる、医療行政、大学運営に関わるグローバルな素養と見識を備えた修了生を育成するためには、「アカデミック・トレーニング」が不可欠であり、これを強化することが教育プログラムの特徴である。

教育プログラムで期待される成果は、以下のことである。

- (1) 国際的に卓越した実践及び教育・研究遂行能力の人材育成
- (2) 看護学国際人育成の教育方法を開発し、わが国での今後の教育方法論の明確化と普及
- (3) 教育・研究成果の実践や政策の場への応用による看護ケアの質の向上
- (4) 国内外の看護学教育者・研究者、実践者との共同による国際ネットワークの構築と連携の推進
- (5) わが国と諸外国の文化に特有な看護学教育・研究成果の蓄積
- (6) 看護学教育・研究成果を欧米やアジア・オセアニア諸国へ発信・共有化

## Ⅲ. 教育プログラムの実施計画の概要

### 1. 教育プログラムの概要

博士（前期）課程では、グローバルな素養と見識を持つ学部卒業生を選抜し、学生はガイダンス、各専門分野の講義・演習、外国人講師招聘による特別講義、国際看護研究方法論、研究計画書の作成、課題研究、論文の作成、審査、学術雑誌への投稿などのプロセスを経験する。その後、それらの学生あるいは一般の大学院生は博士（後期）課程に進んだ後、同様に、専門分野の講義の他、国際看護研究方法論、英語による研究計画書作成、課題研究の実施、英語による結果の討議、英語論文作成、学術雑誌に投稿、審査というプロセスをたどる。この過程において、医療管理政策学（MMA）の国際関係科目の履修、国際学会への発表、看護学英語用語データベースの作成、研究結果の海外への発信を行う。

また、外国人講師等の招聘による英語での授業を行い、博士（前期）課程では短期、博士（後期）課程では長期の海外学術研究を行う。

さらに、魅力ある大学院教育イニシアティブで築いた e-learning の実績を海外の研究者との研究指導にも拡大し、双方向でのやりとりを重視する。この海外との共同教育研究は、本専攻の協定大学である、フィンランド、イギリス、アメリカ、台湾の4ヶ国6大学を始め、アジア・オセアニア諸国の大学とも連携を取りながら行う。

以上のプログラムにより、国際的に活躍する看護学教育・研究者すなわち看護学国際人の育成を目指す。

2. 全体の実施計画 教育プログラム全体の実施計画は、下記のとおりである。

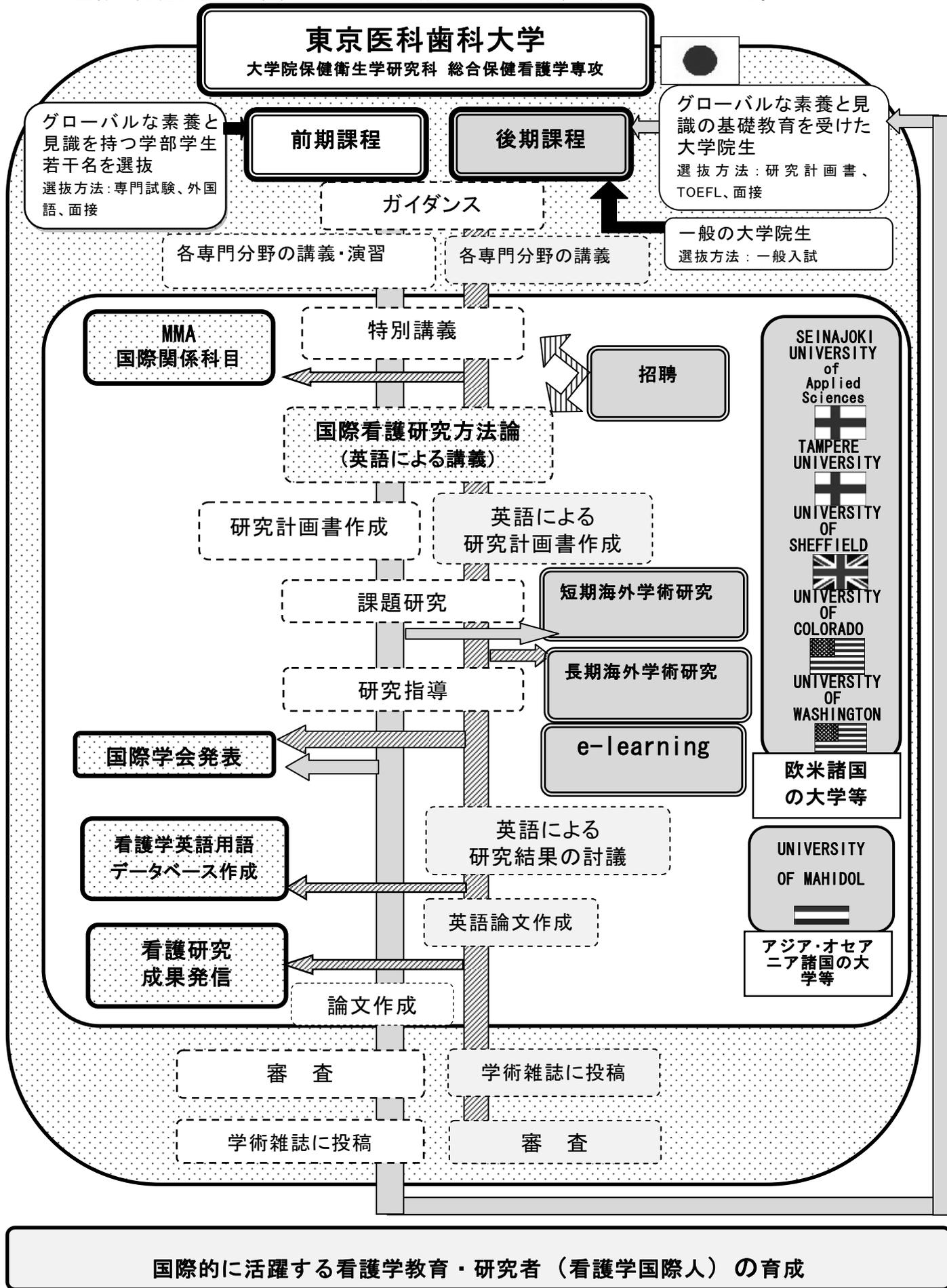


図1 プログラムの全体計画

### 3. プログラムの年次計画

プログラムの年次計画は下記のとおりである。

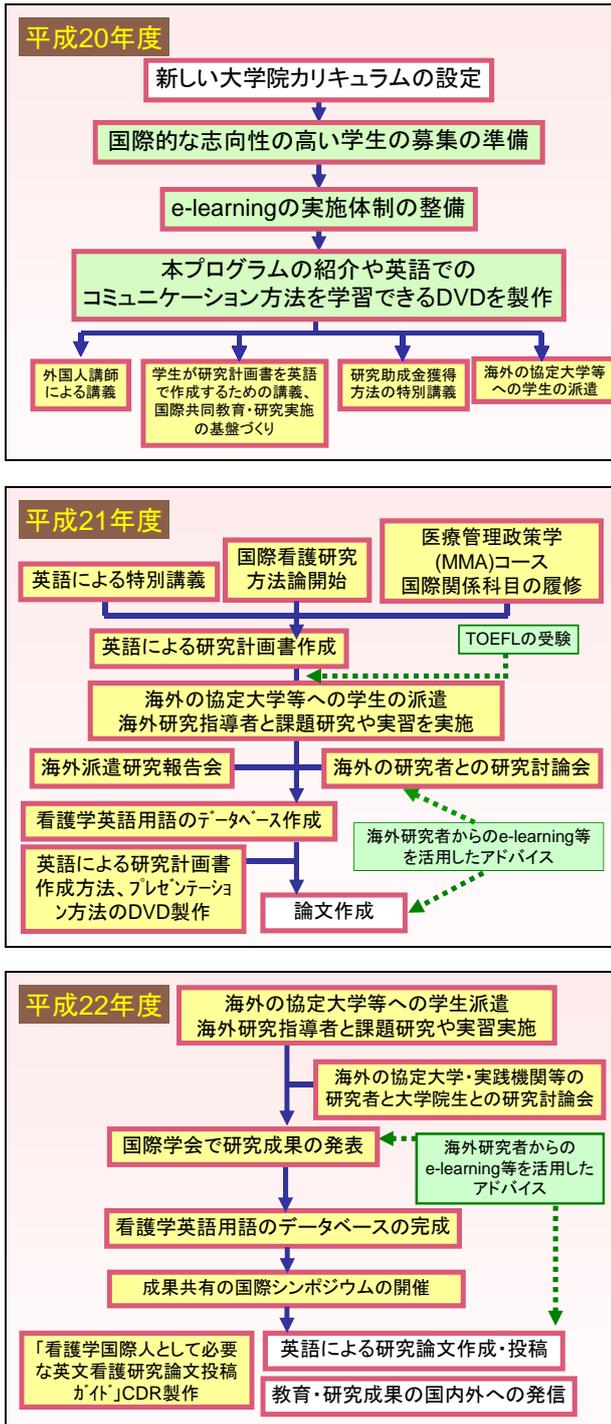


図 2. プログラムの年次計画（平成 20～22 年度）  
の本学教員が訪問した。

海外研修の大学院生の指導を行うと共に、看護学の大学院の共同教育・研究に関して外国人の教育者・研究者と討議した。

表 1. 教員の海外派遣先機関

Seinäjoki University of Applied Sciences, Finland	Karolinska Institutet, Sweden
University of Tampere, Finland	Linnaeus University, Sweden
National Yang-Ming University, Taiwan	Umeå university, Sweden
The University of Sheffield, UK	Oregon Health and Science University, USA
University of Washington, USA	Emory University, USA
University of Colorado, Denver, USA	ICCHNR in Adelaide, Australia 他

注：下線は協定大学を示す

### IV. 教育プログラムの実施結果

#### 1. 教育プログラムの実施による大学院教育の改善・充実について

##### (1) 国際的教育・研究環境の整備

##### ①国際的教育研究の新分野の開設、新科目の設定

平成 20 年度、総合保健看護学専攻に、これまでの 3 講座 11 分野に新たに国際看護開発学分野を開設し 12 分野とした。大学院の授業科目に、国際看護研究方法論、国際看護開発学特論 A、国際看護開発学演習 A、国際看護開発学特論を新たに設定した。

##### ②大学院保健衛生学研究科国際・教育研究センターの設置

総合保健看護学専攻が所属する大学院保健衛生学研究科に、委員会相当の国際・教育研究センターを設置した。センターの運営にあたっては、国際協力支援グループ、国際研究グループ、国際教育開発グループの 3 つの専門グループをおき、海外の協定大学との連携をさらに深めた。

##### ③協定大学の拡大と連携の強化

これまで欧米のフィンランドのセイナヨキ応用科学大学、タンペレ大学、英国のシェフィールド大学、アメリカのコロラド大学デンバー校、ワシントン大学の 3 カ国 5 大学との協定を締結していた。アジアとも国際交流を促進するため、平成 21 年度に台湾の国立陽明大学とも協定を締結した。

##### ④e-learning の実施体制の整備

教育プログラムにおいては e-learning システムを、国内の大学のみでなく海外協定大学等との研究指導に拡大し、有効活用を図った。海外の協力大学等への設置状況は 6 カ国 10 大学に及んでいる。

##### (2) 教員の海外派遣の実施

協定大学を含め、6 カ国、11 の大学等に 15 名

## (3) 外国人講師による講義・演習等の実施

4カ国6大学の協定大学のほか、スウェーデン、ノルウェー、モンゴル、タイを含む計8カ国から述べ33名の外国人講師を招聘し、特別講義、研究費獲得方法の講義・演習等を実施した。このうち、平成20年度は、英語を母国語とする外国人教員を2ヶ月間特任准教授として招聘した。

## 平成20年度

① 2008年11月21日(金) 13:30~16:00

講師 : Ms. Patricia Garibaldi (Director of Clinical Consulting Consonus Healthcare Services USA)

テーマ : “Prevention of falls for elderly people in Oregon”

② 2008年12月19日(金) 13:30 ~16:30

講師 : Ms. Aila Marjatta Vallejo Medina (Head of Degree Programme in Elderly Care, Seinajoki University of Applied Sciences, Finland)

テーマ : Elderly Care Education in Finland

③ 2008年12月19日(金) 13:30 ~16:30

講師 : Ms. Helli Helena Kitinoja (Manager of International Affairs, Seinajoki University of Applied Sciences, Finland)

テーマ : Community Care for Independent Life of the Elderly People in Finland

④ 2009年1月9日(金) 13:30 ~ 16:30

講師 : Ms. Harriet Persson (Health Consultant, Sweden)

テーマ : Community Health Care Nursing and Education in Sweden



写真 1. Ms. Harriet Persson、Ms. Christen Erlingsson による講義

⑤ 2009年1月16日(金) 13:30~16:30

講師 : Dr. Christen Erlingsson (Associate Professor of Nursing, University of Kalmar, Sweden)

テーマ : Regarding the Prevention of Elderly Abuse and Support

⑥ 2009年2月6(金)・13(金)・20(金)・27日(金)および3月6(金)・13(金)・27日(金)

講師 : Dr. Christen Erlingsson

テーマ : The methodology of nursing research (全7回)

第1回 “Qualitative research”, 第2回 “Data collection issues in qualitative research”,  
 第3回 “Phenomenology and hermeneutics”, 第4回 “Narrative analysis”, 第5回 “Rigor in qualitative research”,  
 第6回 “Academic writing and publication of research”, 第7回 “Free discussion”

⑦ 2009年3月5(木)・13日(金)

講師 : Dr. Britt-Inger Saveman (Professor, Umea University, Sweden)

テーマ : “Family nursing- a Swedish perspective of health promotion”  
 “Elder abuse and violence in elderly care”

⑧ 2009年3月12日(木)

講師 : Dr. Dalkh Tserendagva (Health Sciences University of Mongolia)  
 Ms. Khulan Gaalan (Health Sciences University of Mongolia)  
 Ms. Tsermaa Sharav(Shastin Central Hospital)

テーマ : “Current situation and future trend of nursing education in Mongolia”  
 “Issues and challenges of Mongolian nursing”

## 平成 21 年度

① 2009 年 5 月 6 日(水)

講師 : Dr. Fu-Jin Shih (Professor and Dean, National Yang-Ming University)

テーマ : “Applying attachment theory in early childhood practice : Promoting first relationships”

② 2009 年 5 月 7 (木) ・ 8 日 (金)

講師 : Dr. Jean Kelly (Professor, Family &amp; Child Nursing, University of Washington)

テーマ : “Promoting first relationships : Nurturing caregivers to nurture their young children”

③ 2009 年 5 月 13 (水) ・ 15 (金) ・ 19 (火) ・ 20 (水) ・ 22 日 (金)

講師 : Dr. Fu-Jin Shih (Professor and Dean, National Yang-Ming University)

テーマ : “Introduction of the contemporary major qualitative research methods”  
 “How to conduct a research and prepare for publication in SCI/SSCI periodicals”  
 “Contemporary concept of holistic care in Taiwan PBL teaching in Taiwan : Taiwan's experiences in fostering medical/nursing students' humanistic care”  
 “Participation in international and domestic rescue plans - reflections of SARS and Taiwan 's 911 century earthquake rescuing experiences”  
 “Medical/nursing student's plans of international volunteer activities”  
 “Holistic care including physio-psycho-social-spiritual care for the OT donors, recipients and their families and how to manage ethical dilemmas”  
 “How to conduct a research and prepare for publication in SCI/SSCI periodicals”  
 “How to integrate social support from patient's families, interdisciplinary health team in hospital & community, as well as public for dying patients”  
 “Challenges and future trends in Taiwan 's nursing profession”

④ 2009 年 9 月 18 日 (金) 10 : 00 ~ 12 : 00

講師 : Dr. Christen Erlingsson (Associate Professor, University of Kalmar, Sweden)

テーマ : Academic writing

⑤ 2009 年 10 月 27 (火) ・ 28 (水) ・ 29 (木) ・ 30 日 (金)

講師 : Dr. Kaija Puura (University of Tampere, Finland)

テーマ : Program for the EEPP(European Early Promotion Project) –Trainers training  
 Seminar “Needs and development of infants and young children : Modeling basic seminar”,  
 ”Seminar on exploring the problem : Different possibilities of the guided demonstration”,  
 Group discussion, Training practice

⑥ 2009 年 11 月 9 日(月)

講師 : Ms. Lene Holländer (Home Care Consult, Denmark)

テーマ : “Home care and prevention and evaluation in Denmark ”

⑦ 2010 年 1 月 12(火) ・ 14 (木) ・ 18 (月) ・ 21 (木) ・ 22 日(月)

講師 : Dr. Bette Jacobs Dean (Georgetown University, U.S.A.)

テーマ : “Translating genomic science”, “Introduction student presentation 1&2”, “Global health: Priorities, confusion, conflict, collaboration”, “How to add value in an interdisciplinary world”, “Health Law: Using the instruments of the law to improve health outcomes” “Leadership: The Honda way in health care”

⑧ 2010 年 3 月 18 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00

講師 : Dr. Kwanjai Amnatsatsue (University of Mahidol, Thailand)

テーマ : “Public health nursing/community health nursing in Thailand”

⑨ 2010 年 3 月 27 日 (土) 10 : 00 ~ 16 : 00

講師 : Ms. Helli Kitinoja (Seinäjoki University of Applied Sciences, Finland)  
 Mr. Aaro Harjunpää (Member of City Council, Seinäjoki, Finland)  
 Prof. Setsu Shimanouchi (Professor, the School of Nursing and Rehabilitation Sciences at Odawara, International University of Health and Welfare, Japan)  
 Dr. Asta Heikkilä (Dean, School of Health Care and Social Work, Seinäjoki University of Applied Sciences, Finland)  
 Dr. Harri Jokiranta (Deputy city manager/mayor, social and health services), Finland)

指定 : Dr. Christen Erlingsson (Assistant Professor of Nursing, School of Health and Caring Sciences,  
 発言者 Linnaeus University, Sweden)  
 Ms. Harriet Persson (Health Consultant, Sweden)

テーマ : “Strategy of health care and welfare policy and nursing education in Finland”

**平成 22 年度**

① 2010 年 6 月 24 日(木) 14:30～16:00

講師 : Prof. Roger Watson (Professor, School of Nursing & Midwifery, University of Sheffield, UK)

テーマ : Academic writing and publication

② 2010 年 7 月 15 日(木) 16:00～17:00

講師 : Dr. Yiing Mei Liou (Associate Professor, National Yang-Ming University, Taiwan)

テーマ : “Nursing education and research in NYMU”

③ 2010 年 8 月 16 日(月) 16:00～17:00

講師 : Ms. Tove Smedsrod (Hospital Play Specialist, Department of pediatrics, University hospital of Norway, Norway)

テーマ : Hospital play therapist in Norway

④ 2010 年 9 月 24 日(金) 10:30～15:30

講師 : 喜吉テオ 紘子 (University of California, San Francisco, USA)

テーマ : Tips for success as a global nurse researcher

⑤ 2010 年 9 月 24 日(金) 9:30～10:30

講師 : Dr. Kathy Magilvy (Associate Dean, University of Colorado Denver, USA)

テーマ : “Ethnographic research in nursing”

⑥ 2010 年 12 月 17 (金)・20 (月)・22 日 (水)

講師 : Dr. Mary Sue Heilemann (Associate Professor, University of California, Los Angeles)

テーマ : Research trend in the USA 1  
 “Cognitive therapy techniques for depression”, “Situational analysis”  
 “Academic career development of the nurse scholar”

⑦ 2011 年 1 月 8 (土)・12 (水)・13 日 (木)

講師 : Dr. Patricia Grady (Director of National Institute of Nursing Research, USA)

テーマ : Research trend in the USA 2  
 “National Institute of Health and National Institute of Nursing Research”  
 “NINR:Bringing science to life”, “Funding and training opportunities”, “Grantsmanship overview”, “Funding and training opportunities”, Presentation of research proposals

⑧ 2011 年 1 月 17 日(月)10:00～12:00

講師 : Ms. Lene Holländer (Home Care Consult, Care Academy of Denmark)

テーマ : “Home care & preventive visits in Denmark”

⑨ 2011 年 3 月 1 日(火)9:30～11:30, 3 月 3 日(木)10:00～12:00

講師 : Ms. Patricia Garibaldi (Director of Clinical Consulting Consonus Healthcare Services USA)

テーマ : Practical Method for Latest Version of MDS(Minimum Data Set) in Nursing Home in USA

⑩ 2011 年 3 月 3 日(木) 14:00～16:00

講師 : Ms. Helli Kitinoja (Seinäjäki University of Applied Sciences, Finland)

テーマ : Education and Research in Health Care in Finland –Challenge of Home care and elderly care-

**(4) 国際セミナーの開催**

テーマ : “Advanced nursing education and research”

日時 : 平成 22 年 9 月 22 日(水) 10:30～17:00

講師 : Prof. Anne Peat (Dean, School of Nursing & Midwifery, University of Sheffield, UK),  
 Dr. Kathy Magilvy (Associate Dean, University of Colorado Denver, USA),

Dr. Fu-jin Shih (Dean, National Yang-Ming University, Taiwan),  
 Dr. Asta Heikkilä (Dean, School of Health Care and Social Work, Seinäjoki University of Applied Sciences, Finland)



写真 2. 国際セミナー

<Quality assurance and enhancement in higher education>

Prof. Anne Peat (Dean, School of Nursing & Midwifery, University of Sheffield, UK)

<Nursing education and research in USA, Taiwan, and Finland>

Dr. Kathy Magilvy (Associate Dean, University of Colorado Denver, USA)

Dr. Fu-jin Shih (Dean, National Yang-Ming University, Taiwan)

Dr. Asta Heikkilä (Seinäjoki University of Applied Sciences, Finland)

国際セミナーによりフィンランド、イギリス、アメリカ、台湾の4カ国の協定大学の教員と今後の最先端の教育・研究について検討し、引き続き国際的な協働活動を展開していくことを合意した。

(5) 看護英語コミュニケーション講座の開催

看護研究計画書の作成指導、論文の校閲、看護英語コミュニケーション講座の開催等を行った。

合計講座数		講師
20年度	19回	Dr. Christen Erlingsson
21年度	6回	Dr. Christen Erlingsson, Dr. Bette Jacobs, Dr. Kwanjai Amnatsatsue, Ms. Helli Kitinoja, Mr. Aaro Harjunpää, Ms. Harriet Persson, Dr. Asta Heikkilä, Dr. Harri Jokiranta
22年度	4回	Ms. Helli Kitinoja, Ms. Patricia Susan Garibaldi

(6) 英語による看護学研究論文作成、投稿のための演習

		日時	講師
20年度	(1)	2008年11月18・19・20日	Ms. Patricia Garibaldi
	(2)	2009年1月13日	Dr. Christen Erlingsson
		2009年2月16・23・24日	
		2009年3月2・3・9・10・16・17・23・24日	
21年度	(1)	2009年5月7・8日	Dr. Jean Kelly
	(2)	2009年5月14・21日	Dr. Fu-Jin Shih
	(3)	2010年1月19・20・21日	Dr. Bette Jacobs
22年度	(1)	2009年3月2日	Ms. Patricia Garibaldi



写真 3. Dr. Christen Erlingsson、Ms. Patricia Garibaldi の英語による看護学研究論文の校閲

## (7) 研究助成金獲得方法の特別講義の実施

平成 19 年 1 月及び平成 20 年 11 月に研究助成金獲得方法の特別講義の実施と自立して研究を実施できる方策を教授した。

## (8) 医歯学総合研究科の医療管理政策学 (MMA) の聴講を実施

世界各国の保健医療福祉政策や文化・宗教についての学びを深め、さらに海外派遣研究を行うことにより、幅広い国際的な教養を身につけるため、医療管理政策学 (MMA) の聴講を行った。

表 2. 医療管理政策学 (MMA) の聴講状況

	平成 21 年度(人)	平成 22 年度(人)	計
世界の医療制度	8	2	10
世界の文化と医療	6	2	8
世界の宗教と死生観	7	5	12
計	21	9	30

## (9) 学生の海外派遣研究の実施

協定大学のフィンランドの Seinäjoki University of Applied Sciences へ 11 名、アメリカの University of Colorado, Denver、University of Washington、台湾の National Yang-Ming University の他、オーストラリア、イギリス、デンマーク、スウェーデン等 8 カ国 18 か所の大学や施設に、延べ 37 名の大学院生を派遣し、研究、演習、実習等を行った。

表 3. 学生の海外派遣研究先の状況 (平成 20 年度～22 年度)

<u>Seinäjoki University of Applied Sciences, Finland</u>	11 名
<u>University of Colorado, Denver, USA</u>	4 名
<u>University of Washington, USA</u>	4 名
<u>National Yang-Ming University, Taiwan</u>	1 名
その他の米国の大学・施設	9 名
その他：豪州、英国、デンマーク、スウェーデン、韓国	8 名

注：下線は協定大学を示す



写真 4. セイナヨキ応用科学大学 (Finland) における学生の海外派遣研究活動

表 4. 海外派遣研究学生報告会

平成 20 年度	2009 年 3 月 24 日(火)	米国、フィンランド、豪州
平成 21 年度	2010 年 3 月 23 日(火)	フィンランド、英国、台湾、米国、デンマーク、豪州
平成 22 年度	2011 年 3 月 22 日(火)	フィンランド、スウェーデン、米国、韓国

## (10) 教育用教材の製作と活用

## ① 『看護英語データベース』の作成と活用

学生が文化的背景から生じる国際的な看護学用語を正しく活用するために、英米を始め、様々な国の看護英語を翻訳し、『看護英語データベース』を作成し、教育で活用した。

## ② DVD、CDR の製作と活用

以下の視聴覚教材を独自に製作し本学の大学院教育で活用するとともに、国内外の関係大学に配布し、教育で活用した。

- DVD “The English Communication Skills for Graduate Students”
- DVD “The English Presentation Skills for Graduate Students of Nursing”
- CDR 『アカデミック・パブリケーション～看護研究論文投稿法～』

## (11) まとめ

教育プログラムの実施により、看護学国際人育成を推進するための大学院の教育研究環境が整備された。具体的には、大学院保健衛生学研究科および総合保健看護学専攻の「国際看護開発分野」の新設による国際関係分野の整備、「国際看護研究方法論」などの授業科目の設定、大学院医歯学総合研究

科の医療管理政策学(MMA)の国際関連科目の聴講による大学院間の連携教育、大学院保健衛生学研究科への「国際教育・研究センター」の設置による本教育プログラムの運営組織の整備、欧米の3ヶ国のみならず、台湾の大学と協定を新たに締結したことによるアジアとの連携の強化、6カ国10大学とのe-learningの整備による国際的教育・研究の協働活動基盤ができた。

これらの基盤のもとに外国人研究者および自主製作した視聴覚教材活用による特別講義、英語による看護研究論文作成、投稿法の演習、海外派遣研究を行うことにより、看護学国際人育成するための大学院教育・研究の改善・充実につながった。

## 2. 教育プログラムの成果について

### (1) 教育プログラムの実施により得られた期待された成果

#### ① 修了後の状況

博士(前期)課程の修了者の進路について、進学者は教育プログラム開始前の平成19年度4人、平成20年度4人、平成21年度4人、平成22年度8人である。研究教育職への就業者は平成19年度4人、平成20年度2人、平成21年度2人、平成22年度0人である。博士(前期)課程の修了直後の教育研究職への就業者数は減少傾向にあるが、家庭の修了直後に博士(後期)課程へ進学し、研究を継続する学生が増加傾向にある。

博士(後期)課程における修了後の進路では、教育研究職への就業者数が平成19年度11人、平成20年度8人、平成21年度8人、平成22年度7人であり、平成21年度までは、教育研究職に就業する修了者が最も多かった。このことから教育プログラムが、長期的な視点もふまえ、国際的に活躍できる研究者・教育者の育成につながっていると考えられる。

#### ② 入学志願者数

博士(前期)課程への入学志願者数は、教育プログラム開始前の平成19年度41人、平成20年度31人、平成21年度42人、平成22年度52人である。

博士(後期)課程への入学志願者数は、教育プログラム開始前の平成19年度26人、平成20年度38人、平成21年度28人、平成22年度38人と教育プログラム実施3年目の最終年度の入学志願者数が増加した。なお、大学院(前期、後期)課程とも、定員は充足している。

#### ③ 学生の活動量

##### ・ TOEFL 受験状況

大学院生の TOEFL 受験状況は、教育プログラム開始前の平成19年度は0人、開始初年度である平成20年度は0人、平成21年度は14人、平成22年度は10人であった。本教育プログラムにおける海外派遣研究希望の学生に受験を推奨したことにより、学生が TOEFL 受験対策学習会を自主的に立ち上げ組織的に勉学に励み、実践的な英語力の向上が図られ、海外での研究生活への備えができた。

##### ・ 英語による論文、学会発表

プログラム開始前の平成19年度から22年度までの大学院生及び専攻生とその修了生の英語による論文、学会発表数の実績は、表のとおりである。論文数、学会発表数は平成21年度が最も多かった。

表 5. 英語による論文および学会発表数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	(件)計
論文	3	6	13	7	29
学会発表	11	12	26	17	66

#### ④ 教育プログラムによる学生の学習成果

教育プログラム後の学生のアンケートから以下のことがあげられた。

- ・ 日本と海外の共通する課題をエビデンスの共有で効率的に解決できる可能性が学べた。
- ・ 英語での講義やプレゼンテーション、研究計画書、論文作成やコミュニケーションが実施できた。
- ・ 学術的な英語の使い方、国際的なマナーを学べた。
- ・ 海外研究機関とのやりとりの方法、研究計画の立て方が学べた

- ・国際的動向にも注意し、研究を海外に発信する必要性が学べた。
- ・世界のトップレベルの研究者の研究手法や投稿戦略・研究者としての心構えや態度を学べた。
- ・今後グローバルな研究者を目指すためのキャリアプランができた。など

### 3. 今後の教育プログラムの改善・充実のための方策と具体的な計画

(1) 実施状況・成果を踏まえた今後の課題、改善・充実のための方策や支援期間終了後の具体的な計画

#### ⑤ 学生の国際人としての能力修得の認識

平成 22 年度の博士（前期）、博士（後期）在籍学生にアンケートを送付し、対象学生 79 人中 53 人から以下の結果を得た(表 6)。英語での特別講義の他、特に「国際看護研究方法論の履修」、「海外派遣研究」、「医療管理政策学(MMA)における国際的な科目の聴講」の 3 つを全て行った看護学国際人育成教育プログラムの学生とそれ以外の一般学生で、国際的な研究活動に関する比較を行った。「国際的な研究の発信」、「国際的な研究の実施」の意思是、教育プログラム学生と一般学生で有意な関連はみられなかった。看護学国際人育成教育プログラム学生は一般学生に比べ、「英語によるコミュニケーションや質疑応答」(p<0.001)、「英語によるプレゼンテーション」(p<0.001)、「英語による研究計画作成」(p<0.001)、「英語による論文作成」(p<0.05)、「海外の研究機関との e-mail や電話での交渉や連絡」(p<0.01)等の項目に有意に自信が持てるようになっていた。これにより、学生は国際的な研究を推進する意思を持っており、教育プログラムを実施することで、それを実現していくスキルが強化された。

課題としては、「外国人講師による特別講義」、「国際看護研究方法論の履修」は多数の学生の受講が可能であるが、「海外派遣研究」、「医療管理政策学(MMA)の国際的な科目の聴講」は、多数に行うには予算や学習環境の限界があるため、学ぶ意欲の高い学生がいてもすべてのニーズに対応できない可能性があげられる。このため、今後も海外派遣研修を希望する学生の支援を行うため、独立行政法人日本学生支援機構の「平成 23 年度留学交流支援制度」を申請している。また平成 23 年度は「医療管理政策学(MMA)の国際的な科目の聴講」において、平成 22 年度までに聴講できず、聴講を希望する国際的な研究活動に対する意欲が高い学生のために、継続して学ぶ機会を提供することとした。

表 6. プログラム実施における学生の学習効果 (N=53)

		そう思う	そう思わない	p 値
英語でのコミュニケーションや質疑応答に自信がもてた	教育プログラム学生	9(81.8)	2(18.2)	0.000 ***
	一般学生	9(21.4)	33(78.6)	
英語でのプレゼンテーションに自信がもてた	教育プログラム学生	8(72.7)	3(27.3)	0.000 ***
	一般学生	4(9.5)	38(90.5)	
英語での研究計画書作成に自信がもてた	教育プログラム学生	5(45.5)	6(54.5)	0.000 ***
	一般学生	0(0.0)	42(100)	
英語での論文作成に自信がもてた	教育プログラム学生	4(40.0)	6(60.0)	0.038 *
	(N=51) 一般学生	4(9.8)	37(90.2)	
海外の研修機関との e-mail や電話でのやり取りに自信がもてた	教育プログラム学生	8(72.7)	3(27.3)	0.002 **
	(N=52) 一般学生	8(19.5)	33(80.5)	

$\chi^2$ 検定 \*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05

### 4. 社会への情報提供

(1) 教育プログラムの内容、経過、成果等の公表

#### ① ホームページ

平成 20 年度より教育プログラムに関する大学のホームページを立ち上げ、平成 22 年度までプログラムの概要、活動実績、特別講義の案内や関連講座の案内、視聴覚教材の紹介を行った。

#### ② 刊行物等

- ・「看護研究」13(1)、2010 に教育プログラムを紹介する特集号を刊行し、広く周知した。

- ・海外派遣研究による学生の学びが、助産雑誌、お茶の水看護学雑誌などに掲載された。
- ・教育プログラムの報告書、国際セミナーの報告書を作成し、国内外の大学等に配布した。

### ③視聴覚教材等

「国際的に活躍する人材を育成する大学院教育」のプログラムを紹介するDVDを日本語版、英語版で製作し、国内外の大学、研究機関、実践機関など関係部署に配布した。さらに以下の3種類の教育用教材を製作し、本学の学生、他大学の学生、国内外の大学、研究機関、実践機関等に配布した。

- ・DVD “The English Communication Skills for Graduate Students”
- ・DVD “The English Presentation Skills for Graduate Students of Nursing”
- ・CDR『アカデミック・パブリケーション～看護研究論文投稿法～』

### ④カンファレンスなど

- ・2009年1月大学院教育改革プログラム 大学院GPポスターセッションで発表した。
- ・2010年1月日本看護系大学協議会主催のFD研修会パネルディスカッションで発表した。
- ・2011年1月大学院教育改革支援プログラム(医療系)シンポジウムで発表した。

## 5. 大学院教育へ果たした役割及び波及効果と大学による自主的・恒常的な展開

### (1) 当該大学や今後の我が国の大学院教育へ果たした役割及び期待された波及効果

#### ①外国人教育者・研究者からの評価

外国人教育者・研究者からは、教育プログラムについて下記の意見が得られた。

- ・ヘルスニーズの未来や国際的なニーズへの対応のため非常に優れている
- ・国際的な学習・研究の共有は学生・教員両方にとって有益
- ・優秀で将来性のあるプログラムである
- ・国際交流は非常に重要である
- ・論文投稿・学会発表のための、国際的で優れたパーフェクトなプログラムである など。

教育プログラムがわが国の学生・教員および諸外国の教員にとっても有効なプログラムであることは、複数の外国人研究者・教育者により認められた。さらに2011年2月に韓国で開催された東アジア看護学研究者フォーラム(EAFONS2011)では、本学の学生による発表数が最も多かったことから、本学の大学院教育について紹介するよう要請を受け、教育プログラムを発表した。

このことは、国内のみならず、国外においても本教育プログラムが関心をもたれていることを示している。今後も看護学の国際的な教育・研究活動を欧米のみならず、アジア、オセアニア諸国も含めて協働で展開できるような役割を推進することが求められている。また、例えば、本学の協定大学のイギリスのシェフィールド大学が、本学の別な協定大学である台湾の国立陽明大学とも協定しており、本学で行なった協定大学間の合同セミナーで相互交流をもてた。このことから、協定大学を含めた関係大学で国際的教育研究のコンソーシアムを形成し、共同教育研究を推進していくことに合意できた。また教育プログラムに本学や関連大学の教員が関わり、外国人教育研究者と共同で教育研究を行う機会を得たことは、国際的な質の高い教育方法のスキルアップになり、それを学生の教育に応用できた。

#### (2) 当該教育プログラムの支援期間終了後の、大学による自主的・恒常的な展開のための措置

- ・保健衛生学研究科及び総合保健看護学専攻の「国際看護開発分野」の国際関係分野の整備、「国際看護研究方法論」などの授業科目の設定、医歯学総合研究科の医療管理政策学(MMA)の国際関連科目聴講による大学院間の連携教育、保健衛生学研究科内への「国際教育・研究センター」の設置による本教育プログラムの運営組織を維持、継続する。
- ・英語論文の校閲に関しては、学内の国際交流センターが実施する「英語特別クラス」の受講により継続する。
- ・協定大学のフィンランド、イギリス、アメリカ、台湾の4ヶ国6大学と共同の教育研究を継続する。
- ・学生の海外派遣研究支援や外国人講師招聘のために、各種予算の申請による財源の確保を行なう。

## 組織的な大学院教育改革推進プログラム委員会における評価

<p>【総合評価】</p> <p><input type="checkbox"/> A 目的は十分に達成された</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> B 目的はほぼ達成された</p> <p><input type="checkbox"/> C 目的はある程度達成された</p> <p><input type="checkbox"/> D 目的はあまり達成されていない</p>
<p>〔実施（達成）状況に関するコメント〕</p> <p>「アカデミック・トレーニングを実施し、国際的に活躍する看護学教育・研究者、すなわち看護学国際人を育成する」という教育プログラムの目的に沿って、国際看護開発学分野の開設、協定大学の拡大と連携の強化、外国人講師による講義・演習の実施などの計画が着実に実施され、取組を実施する前の課題であった国際的教育・研究環境が改善されるなど、大学院教育の質の向上に大きく貢献している。</p> <p>アカデミック・トレーニングについては実施状況や成果が詳細に検証されており、更に、改善・充実を図ることにより、今後の発展が期待される。支援期間終了後の実施計画については、多くの学生への効果波及に取組むなど、より一層の展開が望まれる。</p> <p>情報提供については、ホームページの内容が充実しており、教育プログラムの成果が分かりやすく公表されている。また、刊行物や視聴覚教材など、多様な手法により、広く社会へ公表されている。</p> <p>大学院における英語教育の強化については、ある程度実績があり、ある程度波及効果が期待される。</p> <p>支援期間終了後の大学による自主的・恒常的な展開については、保健衛生学研究科内への「国際教育・研究センター」の設置による維持・継続などにより、ある程度措置されている。</p>
<p>（優れた点）</p> <p>「アカデミック・トレーニング」は、看護学国際人育成の優れた教育モデルとして高く評価できる。</p> <p>（改善を要する点）</p> <p>大学による支援期間終了後の実施計画については、多くの学生への効果波及の更なる具体化に向けた検討が望まれる。</p>